

実習通信

第31号 2024.4.1

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

TEL 042-342-2311 (代表)

http://daigaku.shiraume.ac.jp/

実習指導センター

TEL 042-346-5283 FAX 042-346-5284

E-mail : j-center@shiraume.ac.jp

教職教育・研究センター

TEL 042-313-2433 FAX 042-313-2747

E-mail : k-center@shiraume.ac.jp

編集・発行 白梅学園大学・白梅学園短期大学
実習指導センター
教職教育・研究センター

学長着任のご挨拶

白梅学園大学・短期大学 学長

小玉 重夫

本年度の4月から学長に着任した小玉です。前々々任校の時代から数えて通算で27年間、教育実習や介護等体験の訪問指導や事前事後指導に関わって参りました。しかし、本学のように多くの施設・機関の皆様方に幅広く実習生を受け入れていただき、ご指導いただくのは初めての経験となりますので、気持ちを新たにしてい取り組んで参りたいと思っております。

現在、日本社会は少子高齢化の波に直面し、高度成長期に形成された家族に教育と福祉の負担を負わせる構造を根本からつくり変え、社会全体で子育てと福祉の営みを支えていかなければならない時代に突入しています。そしてその営みを担う教育と福祉の専門職を養成する課題は、これまで以上に重要な意義を持ってきています。本学の学生にとって実習の場は、まさにそうした教育と福祉の現場に自ら進んで飛び込むという決断に大きく影響を与える貴重な経験の機会となっております。

本学ではこれからも、実習の場を提供していただく皆様方と協働して、新しい未来を切り開く教育と福祉の担い手を育てる使命を果たしていくために全力を尽くしていく所存です。今後ともよろしくご指導をお願い申し上げます。

現場での学習機会に感謝

実習指導センター長

師岡 章

日頃より、本学の実習教育に対し、多大なるご理解、ご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症が2023年5月8日より5類に移行されたことを受け、本学の実習生を積極的に受け入れ、丁寧な指導いただけたことも、改めて感謝申し上げます。お陰様で、実習させていただいた学生たちは、学内での理論的な学びを現場での体験的な学びに結びつけ、保育・教育・福祉等の実践者として求められる専門的力量について、課題意識を高めたようです。特に、短大2年生、四大4年生の卒業年次の学生は、こうした貴重な経験を就職先で生かそうと受け止めておりました。新年度から働かせていただく保育・教育・福祉等の現場での活躍に期待したいと思います。

さて、本年度も、本学では9資格・免許に関する実習を実施し、年間40回の実習に、延べ約1,400人の学生が実習現場に赴きました。初めて実習に臨んだ学生たちは、緊張・不安もあったようですが、現場の皆様のご指導、ご支援を受けながら、観察・参加実習を通して、保育・教育・福祉等の専門職の魅力に気づかせていただいたようです。また、2度目の実習に臨んだ学生たちは、部分実習や一

日実習等、いわゆる責任実習に取り組みせていただく中、少しずつ自信を高めるとともに、今後、身につけるべき課題も明確になったようです。今後のさらなる成長に期待したいと思います。

つきましては、新年度も保育・教育・福祉等に関する資格・免許の取得を目指す学生に対し、可能な限り、現場での学習機会を保障するため、引き続き、実習施設・機関のみならず、引き続き、実習生を受け入れを丁寧にお願いく所存です。保育・教育・福祉等の専門職となるためには、体験的な学びの機会である実習体験が不可欠です。新型コロナウイルス感染症のみならず、様々な感染症が季節を問わず流行する昨今ですが、未来の保育者・教師・福祉職員等を育成するためにも、各現場で学習機会の確保について、ご理解、ご協力を賜れば幸いです。勝手なお願いはかりで大変恐縮ですが、どうぞ、よろしくお願いたします。

実習状況報告

子ども学部 子ども学科

●教育実習(幼稚園)

この3年あまりは新型コロナウイルスの感染拡大により、様々な制限の中で授業や実習を行わざるを得ませんでした。2023年度は5月から新型コロナウイルスが5類感染症に移行となり、新型コロナウイルス以前の状況に戻り始めた中での実習

となりました。

4年生の実習は6月5日(月)～17日(土)の日程で実施されました。5月に新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことで、今後どのような対応を取っていくのか園の方針を明確にするのが難しいタイミングで実習を受け入れていただき、感謝申し上げます。2年次に観察実習を経験しているので園の方針や1日の流れを理解しているとはいえ、今回の実習で指導案の作成、責任実習当日の進め方や子どもとの関わりにおいては、先生方からいただいたご指導・ご助言が学生にとっては大きな学びであり、幼児教育者として自分が今後どのようなことを身につけていくべきか、残りの学生時代の中でどのように課題を乗り越えていくべきかを知ることができた貴重な機会であったと思います。

2年生は9月4日(月)～9月16日(土)の日程で実施されました。本学では2年生の幼稚園実習が大学での初めての实習です。これまでは高校生の時に職場体験やボランティア活動等で幼稚園や保育園で子どもたちと触れ合うような経験をしてきた学生が多かったのですが、新型コロナウイルス感染症拡大によって高校時代にそのような機会を持つことができません。また大学に入学した昨年度もまだボランティア活動等は制限があったため、今回の実習で初めて本格的に子どもに関わるという学生も少なくありませんでした。

そのため、大学での授業や実習の事前指導で子どもの発達や実際に子どもと関

わる上で必要な知識を学んではいるものの、以前に比べると実習の中で園の先生方にご指導いただくことが増えたかと思えます。お忙しい中、先生方の丁寧なご指導に心より感謝申し上げます。

今度も園の先生方と情報交換を密に行い、先生方が実習の中で感じていることを学生指導に生かし、より良い幼児教育者を育てていけるよう努めてまいりたいと思っておりますので、今度も何卒よろしくお願い致します。(安倍 大輔)

●保育所実習

2023年度は、11月に保育所実習Ⅱ(3年生85名)、1月に保育所実習Ⅰ(2年生130名)を、それぞれ12日間、多くの保育所のご協力のもと実施いたしました。

昨年度の5月8日に、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、以前のような実習体制に戻すように努力をしてきました。多くの学生から充実した実習であったという声を聞くことができ、これも実習生をあたたく受け入れてくださった、実習園の皆さまのおかげです。本当にありがとうございます。また、子どもに直接かかわることや先生方の保育をじかに間近で見て学ぶことの大切さを、実習を終えた学生の姿から改めて感じました。保育所実習Ⅰでは、学生は初めての实習にて、期待と不安の渦中にあります。それゆえに、実習において、子どもの姿に丁寧に向き合い、その気持ちや想いを読み取ろうとする姿勢、また保育者の子どもへのかかわりとその意図を察す

ることの大切さを、一人ひとりに伝えていきます。また保育所実習Ⅱでは、学生が実習Ⅰの経験をふまえ、大学における実習指導等の学びと実習が往還的につながり、発展していくような指導を心がけています。そのためには、実習生であっても保育者としての自覚をもち、責任実習に取り組むことが重要であると話しています。

これからも、保育者を目指す学生が自らの夢を実現するよう、皆様と一緒に手を取り合い、応援していきたいと思っています。これからも引き続き、ご協力を願います。(村上 博文)

●施設実習

2023年度の施設実習Ⅰでは8月、施設実習Ⅱでは11月にそれぞれ12日間の実習を行いました。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、学内での実習や期間外の実習を余儀なくすることがありましたが、今年度はコロナ前の体制にほぼもどることができ、また無事に実習を終えることができました。さまざまなか

とで、施設の職員の方々にはお世話になりましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。施設実習へ行く前の学内授業において、施設実習指導の担当教員として心がけていることがあります。「施設のイメージがつかない」「行ったことがないので不安」という学生の不安な気持ちをできるだけ払しょくしてもらえようということです。具体的には、施設の様子がわかるような動画教材をみてもらったり、施設の職員の方に外部

講師として講義をしていただいたり、すでに施設実習を経験した学生たちの声を集めて伝える等の工夫をしています。それでも完全に不安は拭えないまま学生たちは実習へ行くこととなりますが、巡回訪問の際の学生の表情をみまると明るく充実感を得ている姿を目の当たりにすることが多くあります。実習後の反省会や発表会においても深い学びにつながったことが学生の発言から感じ取られます。ひとえに施設の方々の丁寧な指導と支援によるものと考えております。来年度も、どうか温かいご指導をよろしくお願い申し上げます。(庭野 晃子)

●教育実習(小学校)

2023年度の小学校教育実習は、5月15日から6月10日までの計4週間を基本実習期間として実施されました。実習生の総数は、東京教師養成熟生を含めて計30名でした。途中、実習の途中の中止や訪問するなどの必要もなく、順調に進みました。

全体的に見て、どの学生にとっても有意義な学びの機会となったようです。今回、教育実習に臨むにあたり、事前指導ではこれまで学習してきた知識や技術、さらには教職を志す者としての自己の適性と能力を検証する場として教育実習を位置づけ、学生がスムーズに実習に臨むことが出来るよう、用意周到に準備を進め指導を行ってきました。具体的には、グループを学習活動の基本単位としつつ、①小学校の役割や機能・小学校教諭の役

割や職業倫理、②実習の目的・課題・実習日誌の書き方、③指導計画・各教科の指導法・学習指導案の立て方、等を中心に指導を行いました。実習中は、実習生一人につき実習前訪問・実習中訪問・研究授業の計三回の訪問指導を実施することで、学生が実りある実習期間を送れるよう丁寧な指導を実施できました。実習後に行われた報告会では、皆一同に教員になる気持ちが一層高まった、子ども理解や教材研究の重要性について今まで以上に深く理解することができた、など前向きなコメントが数多く寄せられました。

これもひとえに、本学の学生を快く受け入れてくださった実習校の皆様方のご尽力に依るところが大きいと思っております。関係各位には、心より御礼申し上げます。
(増田 修治)

●ソーシャルワーク実習

実習機関・施設の皆様におかれましては、今年度も本学のソーシャルワーク実習に際し、ご理解ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。社会福祉士養成課程のカリキュラム変更に伴い、旧カリキュラムでの実習は今年度限りとなります。ただし学校によって新カリキュラムと旧カリキュラムが入り乱れる中での実習となり、困惑するところもあつたかと思えます。ご迷惑をおかけしました。

さて今年度は子ども学科25名、家族・地域支援学科36名の学生が実習に臨みました。新型コロナウイルスが5類に移行したこともあり、細心の注意を払

いながら実習の機会をご提供くださり感謝申し上げます。指導者をはじめとする職員の方々からの熱のこもったご指導、並びに利用されている方やご家族の方との関わりは大学での学び以上の経験と自信を与えてくれました。卒業後には福祉機関、福祉施設、保育所などそれぞれが選んだ道に進んでいきますが、今回の実習を経て得られた価値や視点は必ずや学生を支える力になっております。

そして来年度からは新カリキュラムでの実習となり、合計240時間(原則60時間+180時間)の実習が課せられます。しかも異なる種別での実習となるため、学びを確認した上での実習プログラムの作成など実習指導者の皆様にも負担をおかけすることも多いかと思えます。大学としても万全の準備はしているつもりでも、1年遅れであることからまだ見えない手続きや対応ができていない点もあるかと思えます。その際には巡回教員にご指摘いただけますと幸いです。
(牧野 晶哲)

●博物館実習

2023年度は、1名の学生が博物館実習を行いました。学内での実習は例年通り、B棟4階の博物館実習室を拠点に3年後期から4年前期に行い、学外実習に向けた準備を整えていきました。

学外での館務実習は、7月末から8月下旬にかけて実習生の居住地の博物館での実施となりました。学生の实習先からの評価は総じて良く、

実習中訪問でも他大学の学生と交流し、笑顔で取り組む姿を見ることができました。新型コロナウイルスの影響による接触制限がなくなり、博物館実習においても実際の来館者との関わりも復活してきました。その中でも、夏休み中の子ども来館者への対応については、これまでの実習などの経験も踏まえて行うことができたようで、学芸員の先生からお褒めの言葉を頂戴することがありました。古民家や野外での活動も多く、猛暑の中での実習になりましたが、大変充実した実習となったのではないかと思います。

本学においては、学芸員の資格と直結した進路をとる学生はいないかもしませんが、今後の進路、職業に博物館実習から得たものを生かしていつてもらいたいと思えます。

実習指導にご協力をいただきました先生方、快く実習をお引き受けくださった博物館関係者の皆様に御礼を申し上げます。今後とも変わらぬご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。
(尾崎 万帆子)

●子ども学部 発達臨床学科

●教育実習(幼稚園)

未だコロナ禍の爪痕が残る中、2023年度も多くの学生の実習を受け入れていただき、誠にありがとうございました。数名の学生が体調不良で日程の再調整をお願いした際にも快くご承諾下さり、心より感謝申し上げます。お蔭様でほぼ予定

通りに、2年生(9月)、3年生(5月)の実習での学びを終えることができました。

本学科の2年生にとってすべての実習の始まりとなるのが、こちらの幼稚園実習です。そのため学生は例外なく緊張しており、現場での動き方や自分で考える姿勢など、至らない点ばかりだったと思います。ですが実習を終えた後には、反省を交えながらも自分の言葉で実習の様子を生き生きと語る姿を見て、貴重な学びの機会をくださったのだと感じました。

3年生は2回目の実習となりますが、その分、実習開始前から責任実習の重みを感じている様子でした。それでも先生方の丁寧なご指導のお蔭で、自分なりに実習を終えて大学に戻ってきた際には、少しばかり安堵した表情と共に成長を感じさせる言動も見られました。責任実習が想定通りにいかなくとも、うまくいかなかったからこそ学びや今後の課題も見つけられたのではないかと考えております。

教員としては、自分の体調の把握やその管理も含めたうえで自己理解、先生方からのご助言を活かしつつも自分で考えて動くことのできる主体性を伸ばしていけるよう、学内指導を行っていくつもりです。2023年度も引き続き、ご指導のほどをお願い申し上げます。
(江上 園子)

●保育所実習

保育所実習Ⅱ(12名、以下実習Ⅱ)は11月2日から16日に、保育所実習Ⅰ(25名、以下実習Ⅰ)は、1月29日から2月10日に実施しました。

昨年度の実習Ⅱ事前授業では、主に①指導案づくり(保育をデザインする)②実習日誌の書き方(エピソードで記録を書く)について取り組みました。グループでの対話や意見交換の時間を多く持ち、チームで保育を考えることを経験的に学んでいきました。実習Ⅰ事前授業では、「日誌の書き方」の他、動画を観ての意見交換の時間を多く持ち、振り返ることで理解を深めていくこととその意味を確認しました。また、各実習事前授業では、

保育の現場でご活躍されている先生方からご講義をいただきました。実習Ⅰの学生においては、今まで触れたことがなく不安が強かった乳児保育の面白さ、素晴らしいに触れることができ、楽しみを増やすことができました。実習Ⅱの実習生も、先生方の生き生きとした語りから、指導実習などの新たな課題に対する緊張をほぐすことができました。

実習Ⅱ事後授業では、昨年の実習とも異なる達成感を得て、保育の深さを実感したようでした。この学びを卒後にも続けて、保育に対する理解をさらに深めていくと欲しいと願っています。

今後とも実習園の先生方と様々な協働させていいただきながら、実習が学びの基礎の一つになるように、丁寧な指導に努めていきたいと思えます。

今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

(宮田 まり子)

●施設実習

施設実習にご協力いただきましたこと、

この場をお借りして深く感謝申し上げます。昨年度は、コロナ禍前の体制となり実習を行うことができました。しかしながら、福祉施設では引き続き感染症対策を行っておりますので、今後も対策を継続していきたいと思えます。

施設実習Ⅰは、30名の学生が履修しました。今年度はほとんどの施設で夏休み期間内の実習を行うことができました。実習前に各施設の支援内容、施設職員の職務などを学んできましたが、実習ではより具体的に学ぶことができました。特に、実習内で反省会を通して、様々なことを学ぶことができました。おかげさまで、施設実習Ⅰは全ての学生が実習を終えることができました。

施設実習Ⅱは、18名の学生が履修しました。今年度は、施設実習Ⅱを選択する学生が例年よりも多かったという特徴がありました。学生たちに聞きますと、将来は福祉施設の職員として働くことを希望している学生が多く、実習を通して進路へのイメージをつけることができました。学生も多かったです。施設実習Ⅱは、自身の進路を考える上でも大変重要な実習であると考えております。

学生によつては、様々な課題をもってあります。対人援助職に就く者としての適格性などにつきましても引き続き、ご指導をいただければと思います。末筆ではございますが、学生たちに丁寧な指導をいただきましたこと、心から感謝を申し上げます。

(廣澤 満之)

●特別支援学校教育実習

2023年度の特別支援学校教育実習は、4月から12月に行われました。2023年度は、東京都の特別支援学校で受け入れていただき、計7名の学生が実習に取り組みました。この貴重な経験をもとに、各学生は4月から、特別支援学校教諭として正規採用された3名を含む、7名全員が教員としての勤務を開始しています。

2023年度の事前指導では、実習での授業実践に向け、仮想の事例(クラス)をもとに、模擬授業の実施に取り組みました。学生は、各種障害の特性を踏まえ、各自で工夫を凝らしながら学習指導案や教材を作成し、授業を実施していました。加えて、特別支援学校で働く卒業生や学外講師の講話、移乗・食事の介助演技実習も受け、実習に向けた準備を進めていきました。これらを踏まえ、各学生が実習での抱負と課題を作成し、新たな決意をもって実習へ臨みました。

実習では、各学生が小学部・中学部・高等部のそれぞれに配属され、知的障害や肢体不自由を有する児童生徒と日々関わりながら、研究授業に取り組みました。その成果は、実習後に学内で報告され、各学生の児童生徒を理解する視点や授業に対する考え方や、そして自立観に、大きな変化と成長を感じました。これも、各校の先生方の丁寧なご指導の賜物であると実感しております。2024年度も、多数の学生が各校にてご指導をいただくこととなります。引き続きよろしくお願ひいたします。

(橋本 陽介)

●心理実習

昨年度の心理実習は4年生となった5名と新たに3年生となった3名が履修いたしました。4年生は前期に実地実習、3年生は後期に見学実習が中心というスタイルを初年度より踏襲し、全体で80時間以上の実習に励みました。ありがたいことに、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5領域すべてで学ぶ機会を頂戴しております。網羅的に学べましたために、公認心理師としての専門知識の幅の広さに圧倒されながらも、学生たちは将来進みたい領域へのイメージが及んだだけでなく、具体的に何処、何を、連携するのかの理解が進んだようです。コロナ禍が落ち着いたばかりで、まだ緊張感の漂う状況下で、学生にとつての大きな学びの場を提供下さいました先生方へ、心より感謝と御礼を申し上げます。

お蔭様で、4年生5名のうち2名は公認心理師養成課程の大学院へと進学いたしました。彼らには将来、どのようなクライアントさんにも寄り添える個別最適化の視点だけでなく、組織全体をも見通せる全体最適化の視点ももったバランスの良い専門家になって欲しいと思っております。また大学院へは進学しなかった3名についても対人援助職の道を選び、将来心理的課題を抱えた子どもや保護者に対して、カウンセリング・マインドを持ちつつも、必要な場合には公認心理師の方達等へと橋渡しできる知識をもった保育者として現場で活躍して欲しいと思っております。

一昨年度に引き続きオンライン実習やご来校頂いての実習でご面倒をおかけいたしました。その中で得られた学びとして、実習形態ではなく、現場にお邪魔することが叶わなくとも、先生方が現場のお話やその領域で重視すべき姿勢・理解のあり方を熱心にお話くださることで、想定以上に実りのある心理実習となりました。来年度も引き続き、ご無理のない範囲でご指導を賜われましたら幸いです。何卒よろしくお願ひ申し上げます。(松田 佳尚)

子ども学部 家族・地域支援学科

●介護実習

ウィズコロナ時代に突入するなか、他の感染症の流行もあり、施設の皆様のご対応は休まることのない2023年度でした。そのような中、介護実習は、実習施設から多大なご協力を得て、無事ほぼ従来通りに実施することができました。

可能な限り円滑な実習が実施できるよう調整を図り、学生の皆さんも担当教員達も感染予防対策に努め、健康観察を励行し、利用者様たちに対して、できる限り安全に実習できるよう配慮して実施いたしました。

1年生の1期実習は、初めての实習であり、施設を知ること、利用者を知ることが主な目標です。そして1年次終了間際の春休みに2期実習を行ないます。ここでは、個別支援に欠かせない介護過程の展開が学べるように、受け持ち利用者様を選定し、情報収集及びアセスメント

に挑戦します。

2年生の3期実習は施設実習の総合的な実習であるため、1人の利用者様を受け持ち、介護過程を一貫して実践することが求められます。丁寧な事例情報を行い、学生はこの情報からアセスメント、計画立案をして、計画実施・評価に臨みました。その場で指導して下さった実習指導ご担当職員さんもオンラインでご参加いただき、事例報告会も実施しました。この場をお借りして皆様に御礼申し上げます。

現在も予断を許さない感染状況が続いております。引き続き、ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。(土川 洋子)

●ソーシャルワーク実習

今年度もCOVID-19禍の影響が残る中、本学のソーシャルワーク実習をお引き受けいただき、心より御礼申し上げます。本年度も至らない点もあり現場のみなさまにご迷惑をおかけした点があったかと思いますが、心よりお詫び申し上げます。

社会福祉士教育におきましてはカリキュラムの改訂が行われ、本年度3年生より新カリキュラムでの実習となっております。実習先のみなさまには実習時間の増加を含め新たなご負担をおかけすることとなり心苦しい限りではございますが、後進の育成のため何卒ご理解とご協力を賜ればと存じます。

学生は実習で利用者と出会い、その出会いの中から多くの学びを得ています。学生自身も自主的にボランティアや授業

での見学等で利用者とお会いする機会がありますが、実習ほど深く利用者とかかわる機会は多くありません。そうした実習の中で、対象者理解の奥深さや社会福祉のやりがいを見出しています。そうした経験を経て進路選択を行う学生も少なくありません。まさに実習は対象者との出会いの場であり、学生のその後の人生に影響を与えるものとなっています。今年度もそのような姿が多数ありました。

現場では人員不足が大きな課題となっており、また大学においても社会福祉を学ぼうとする人は減少しています。このような時代にあつて、社会福祉を職業としようとする人材は大変貴重であり、現場のみなさんと協働で育てながら成長を見守りたいと思います。(杉本 豊和)

●スクールソーシャルワーク実習

今年度のスクールソーシャルワーク実習は1名の学生が希望し、海老名市教育委員会教育支援センターにて合計12日間(90時間)の実習を実施しました。実習をさせていただいた教育委員会、学校、そしてご指導くださいましたスクールソーシャルワーカーの皆様におかれましてはご多忙な中にもかかわらず実習を承諾いただき感謝申し上げます。

一昨年度には生徒指導提要も改定され、いじめや不登校などに対して学校の組織的対応がより一層明確に示されました。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーには『課題予防的生徒指導』において児童生徒理解(アセスメント)

からチームに参画し、子どもや家庭への支援を行う専門職として期待されております。これも踏まえ、全国的にはますます増員の一途を辿っております。

しかし現場に目を向けると増員を図っているものの会計年度任用職員という身分給与水準、そして適格な人材の不足から欠員が生じている自治体も多くあります。スクールソーシャルワーカーも学校や社会から役割が認められることに喜びを感じるものの、慢性的な人手不足により一人ひとりの子どもと丁寧に関わる時間が取れないジレンマも抱えております。

その他にも課題は山積しており、人材養成の充実(養成校、現職者)、運用方法の改善、待遇改善など総合的に取り組む必要があります。政策的にもまだまだ過渡期といえるスクールソーシャルワーカー活用事業ではありますが、今後スクールソーシャルワーカーの皆様方はじめ、教育委員会や学校とも情報共有をしながらか、大学としても人材育成、人材供給できたらと思ひます。今後ともよろしくお願ひいたします。(牧野 晶哲)

短期大学 保育科

●幼稚園実習

2023年度幼稚園実習では、2年生78名が54園で実習を行い、1年生79名が62園で実習を行いました。幼稚園の先生方には、年度初めのお忙しい中にも関わらず学生への丁寧な助言とご指導を頂きまして誠に有難うございました。

2年生は、5月半ばからの実習に向け、今年度は4月4日より事前指導の授業が始まりました。実習前は3週間という期間を長いと感じる声が聞かれておりましたが、実習訪問での様子、また実習後の振り返りでは、3週間という期間に短さを感じた学生が多くありました。また、昨年度から子どもたちの成長・発達を直に感じ、子どもとの関わりを通して幼稚園教諭という仕事の魅力を感じたようです。これもひとえに実習をお受けいただき、日々の実習を支えてくださった園長先生はじめ、担任の先生方のお力添えがあったること心より感謝申し上げます。

1年生は、入学して間もない6月の時期に1週間という短い期間での実施となっておりま。保育者を志して入学し、実践現場において直にご指導いただく初めての実習となります。年齢による発達の違いや個人差、また幼稚園教諭という仕事について知り、その後の大学の授業に繋がる貴重な学びとなっております。幼児教育について学び始めたばかりの学生にとって、先生方からの助言や子どもとの関わりの観察から学ばせていただくことは、2年後の就職への意識に深く結びついていることを感じます。

実習後は、保育科の教員全員体制のもとで、振り返りや日誌記録ならびに評価票を通じての面談を行い、実習での学びを学生とともに言語化しながら、次の学びに活かしてまいります。引き続きお世話になりますがどうぞ宜しくお願い致します。また、お気づきのこと等

ございましたら遠慮なくご連絡いただければと存じます。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。(源 証香)

●保育所実習

保育所実習Ⅱ(2年生)は、11月2日から開始し、12日間の実習を62名の実習生が無事に終えることができました。保育所実習Ⅰ(1年生)は、1月29日より開始し、12日間の実習を77名の実習生が参加しております。保育所には、貴重な実習の機会をお引き受け頂きまして誠に有難うございました。心より感謝申し上げます。

実習の事前指導内容として、保育所実習Ⅱは、まず各発達段階をふまえた保育内容を計画することを行い、グループに分かれ指導プランを検討することに取り組みました。次に、子どもの姿をどのように捉えエピソードを記録するのか、実際に保育現場の映像を見て進めました。その際、子どもの学び・育ちの視点、保育者の援助の視点を大切に記録することを行い、2人組で意見交換をしながら進めました。実習を終えた学生からは、「エピソード記録を書くことはとても難しかったが、より子どもの様子を深く観察することに繋がった」「保育者の行動の意図を考え、保育への願いや思いということをより考えるようになった」という感想がありました。

次に、保育所実習Ⅰの事前指導は、実習の目的を理解し、保育の1日の流れを確認することを行いました。昨年の事後指導の振り返りの中で、子どもの姿を観察し、日誌にまとめることが課題であったとの意見

が多く見られたことより、保育場面の映像を見ながら日誌を記録することを丁寧に行いました。全実習生の保育所実習Ⅰがまだ終えていない状況ではありますが、事後指導の振り返りを丁寧に行い次の実習に繋げられるように取り組んでまいります。今後、大学での学びが実習に繋がるように取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。(佐藤 文)

●施設実習

2023年度の施設実習においては、保育科の学生84名が2年次夏の施設実習Ⅰに参加しました。また、2年次秋の施設実習Ⅱには、21名が参加し、児童福祉施設や障がい者(児)施設において実習を行いました。施設実習Ⅱでは、昨年度の倍以上の人数となったことから、最初は不安もありましたが受け入れ施設の全面的な協力により、無事に全員が実習を終えることができました。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症から類感染症に移行後の実習となりました。そのため、少しずつではありますが日常を取り戻しつつある中で、学生は感染対策を取りつつも、より積極的に利用者や職員の方々と接することができました。訪問の際には、卒園生との交流会を数年ぶりに実施したといった児童養護施設も見受けられ、実習生にとっても貴重な経験となりました。

実習の振り返りでは、「これまで先入観を持っていたが、実習を通して考えが変わった」や「施設実習を通して、就きた

い仕事が決まった」、「施設と地域における交流の重要性について学ぶことができた」など、様々な意見が寄せられました。

毎年のことですが、施設実習を経て乳児院や児童養護施設、児童福祉施設、障がい者(児)施設への関心が高まる学生、進路を決める学生もいます。これらの選択肢を持つことは、施設の皆様が丁寧な指導をしてくださった結果と言えます。2024年度も、ますます協力を賜りますようお願い申し上げます。(浅野 涼太)

実習打ち合わせ会

2023年度の実習打ち合わせ会は、1月25日(木曜日)に開催されました。昨年度はコロナ渦ということもありオンラインにて開催されましたが、今年度も引き続きオンラインで行うことになりました。14時からの全体会には116名の方々がご出席され、15時30分からの懇談会には、保育所からは58園61名、幼稚園からは16園16名、施設からは22園25名の方々にご出席いただきました。本学から子ども学科、発達臨床学科、保育科、キャリアサポート課、実習指導センターの教職員が参加しました。

全体会では、高田学長から、「これからの時代における実習を考える」時代をよみ知見をヒントに」と題した講話がありました。実習の場面で学生に学んでいること、現場から学ばせて頂いていることとして、「1. これからの時代をどうとらえるか」、「2. これからの時代の保育」

(共生社会の保育、0歳から18歳までを見通すなかでの「架け橋」の時期における専門性に基づく取り組み、質の高い保育や環境保障)、「3. これからの時代における実習」(実習は学び合いの影響を与え合う主体としてのありようを場面を通して学ぶもの)の3つの視点からの報告がありました。次に、宮田キャリアサポート課長より、学生の就職実績や就職先希望についての近年の動向について学科ごとに説明が行われました。最後に、師岡実習指導センター長より、本学の実習の現状と課題について報告がありました。

懇談会では、保育所は第1懇談会(6分科会)、幼稚園は第2懇談会、第3懇談会、施設は第4懇談会(障がい系)、第5懇談会(養護系)の合計5会場において実施されました。各懇談会では、それぞれ自己紹介を行った後に、実習の実際や学生指導上の課題の検討、現場と養成校との連携に関する意見交換が行われ、情報の共有が図られました。各実習園、施設からいただいたご意見は、実習指導のあり方にとって大変貴重な情報となります。皆様からいただいたご意見を今後の実習指導に活かして参りますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。

(安形 元伸)

介護事例検討発表会及び 実習指導者打ち合わせ会

本年の発表会、指導者の打ち合わせ会は、2023年12月9日に行われました。学生

は対面でしたが、実習指導者の皆様にはオンラインでご参加いただきました。

今年度もコロナ禍ではありませんが、19名の学生が介護実習Ⅲを履修し、実習先の皆様の指導を受けながらやり遂げることができました。その学び受け持ち対象の方の介護過程を事例としてまとめ、第1部で発表いたしました。例年同様施設の指導者の方からコメントをいただくことができました。

その後、第2部で実習指導者打ち合わせ会を行いました。

今回のテーマは、「コロナ禍の介護実習、感染症に対する施設の対応、実習記録について」でした。コロナ禍でも予定通り実習をさせていただきましたが、それらの対応方法などは施設によって異なりますので、どのようにしているかなど報告いただきました。施設では経験を蓄積され、ご利用者との接し方など様々な工夫をされています。それらの経験など交流しました。議題の二つめは、実習記録についてです。

最近では、施設においてデジタル化が進んでいますが、当校では手書きが基本です。本年度から一部のみPC使用としています。実習施設ではどのように考えておられるのか、また、実習に来られる他の養成校はどのようにされ

ているのかなど伺いました。施設では、最近の流れの中で、問題はないこと、他の学校でもデジタル化が進んでいることの情報を受けました。記録については、今後も検討していきたいと考えています。

本学では、実習施設の皆様と連携を強化し、介護福祉士養成に努めていきたいと思えます。

今後とも何卒よろしく願い申し上げます。

参加された皆様のご許可をいただき、スクリーンショットを掲載させていただきます。

(西方 規恵)

ソーシャルワーク 実習報告会

今年度の実習報告会は、新型コロナウイルス感染症から類感染症に移行したとはいえ、依然としてその影響は大きなものであるため、昨年までと同様に学生及び実習指導担当教員のみで開催しました。報告は6分野(児童、高齢、障害、社会福祉協議会、福祉事務所、医療機関)から1名ずつが行い、スクールソーシャルワーク実習の報告も1名行いました。

座学で学んだことと現実との間で戸惑いを覚える報告がいくつかありました。子どもの最善の利益や利用者のニーズを大切にしていくことは、基本的な事項であります。しかし、実際の現場で相対するときに、それらを優先すると、逆に当事者に不利益が生じるようなことが想定

される場合、どのようにすればよいのかということですが、その戸惑いに真摯に向き合い、解決策がなかなか見えずに悩みながらも、諦めずに考えることの大切さが報告されました。

また、個別支援計画等を作成する過程においてアセスメントで成育歴等の見えていない側面があったこと、あるいは利用者とかかわる中で実習生の関与によってトラブルが生じた可能性があるケース等、自らのかわりの妥当性を反省的に考察する報告もありました。加えて、比較的重いケースに向き合うことの難しさについても語られました。これらは、実際に取り組んだからこそ見えてくるものであり、そこから学びへとつながっていました。日々の実践の中で実習生の困難や葛藤を支えていただきましたことに、改めてお礼申し上げます。

実習生がこれから社会へ出る時、どのような職員像をめざそうとするのか、その手掛かりも得られたものと思います。他方、今日のソーシャルワークの展開過程において、一つの施設や機関だけで支援を完結させることは困難です。多様な施設や機関がどのような連携を展開しているのかも多く学ばせていただきました。多機関連携を前提としながら、自らが担う役割をどのように展開していけばよいのか。複雑化、多様化する困難に支援者としてどのように取り組んでいけばよいのか、その礎を築くことができた実習であったように思います。

(井原 哲人)

● 2024年度 実習スケジュール

月	幼稚園実習			保育所実習			施設実習			小学校教育実習			特別支援学校教育実習		ソーシャルワーク実習		博物館実習	介護実習	スクールソーシャルワーク実習	心理実習
	子ども学科	発達臨床学科	保育科	子ども学科	発達臨床学科	保育科	子ども学科	発達臨床学科	保育科	子ども学科	発達臨床学科	家族・地域支援学科	子ども学科	発達臨床学科	子ども学科	家族・地域支援学科	子ども学科	家族・地域支援学科	家族・地域支援学科	発達臨床学科
4																				
5		2年生幼稚園実習(5/13~5/25)	2年生幼稚園実習(5/13~6/1)							4年生教育実習(小学校)(5/13~6/8)実習校により前後あり	4年生教育実習(小学校)(5/13~6/8)実習校により前後あり	4年生教育実習(小学校)(5/13~6/8)実習校により前後あり						3年生介護実習Ⅳ(5月~6月)		4年生心理実習(4月~7月)
6	4年生教育実習(幼稚園)(6/3~6/15)		1年生幼稚園実習(6/3~6/8)																	
7																				
8							3年生施設実習Ⅰ(8/17~8/29)	3年生施設実習Ⅰ(8/16~8/28)								4年生ソーシャルワーク実習(8/5~9/19)又は夏季休暇期間内	4年生ソーシャルワーク実習(8/5~9/19)又は夏季休暇期間内			
9	2年生教育実習(幼稚園)(9/5~9/18)	2年生教育実習(幼稚園)(9/5~9/18)							2年生施設実習Ⅰ(8/29~9/10)			4年生特別支援学校教育実習(9/2~9/13)実習校により前後あり	4年生特別支援学校教育実習(9/2~9/13)実習校により前後あり					4年生博物館実習(夏季休暇期間内)	2年生介護実習Ⅲ(8/5~9/4)	
10										3年生介護等体験(6月~3月)	3年生介護等体験(6月~3月)	3年生介護等体験(6月~3月)								4年生スクールソーシャルワーク実習(6月~3月)
11				3年生保育所実習Ⅱ(11/6~11/19)	3年生保育所実習Ⅱ(11/6~11/19)	2年生保育所実習Ⅱ(11/6~11/19)	3年生施設実習Ⅱ(11/6~11/19)	3年生施設実習Ⅱ(11/6~11/19)	2年生施設実習Ⅱ(11/6~11/19)											
12																				
1																				
2				2年生保育所実習Ⅰ(1/31~2/14)	2年生保育所実習Ⅰ(1/31~2/14)	1年生保育所実習Ⅰ(1/31~2/14)									3年生ソーシャルワーク実習(2/5~3/31)又は春季休暇期間内	3年生ソーシャルワーク実習(2/5~3/31)又は春季休暇期間内		1年生介護実習Ⅰ(2/10~2/21)		3年生心理実習(10月~3月)
3																				

●各実習では、実習に向けて事前事後の指導を行っています。また、上記の日程は予定になります。

● 2023年度 実習生数

※実習生数には科目等履修生と大学院生を含む

短大	保育科	1年 幼稚園実習	78	保育所実習Ⅰ	77
		2年 幼稚園実習 保育所実習Ⅱ	79 62	施設実習Ⅰ 施設実習Ⅱ	83 21
大学	子ども学科	2年 教育実習(幼稚園)	135	保育所実習Ⅰ	129
		3年 施設実習Ⅰ 施設実習Ⅱ ソーシャルワーク実習	119 34 23	保育所実習Ⅱ 介護等体験	85 22
		4年 教育実習(小学校) 教育実習(特別支援) ソーシャルワーク実習	22 1 25	教育実習(幼稚園) 博物館実習	110 1
		2年 保育所実習Ⅰ	25	教育実習(幼稚園)	30
	発達臨床学科	3年 保育所実習Ⅱ 教育実習(幼稚園) 施設実習Ⅱ	12 31 18	介護等体験 施設実習Ⅰ 心理実習	10 30 3
		4年 教育実習(小学校) 教育実習(特別支援)	7 6	心理実習	5
		1年 介護実習Ⅰ	22	介護実習Ⅱ	13
	家族・地域支援学科	2年 介護実習Ⅲ	15		
		3年 介護実習Ⅳ ソーシャルワーク実習	18 40	介護等体験	3
		4年 ソーシャルワーク実習 教育実習(小学校)	36 1	スクールソーシャルワーク実習	1

● 昨年度も白梅学園大学・短期大学の各種実習を実施するに当たり、実習関係先等関係者の皆様のご理解とご協力を賜りましたことに改めて感謝申し上げます。白梅学園大学・短期大学実習指導センター及び就職教育・研究センターでは、学生のキャリアデザインにおける学びの深化を目指して、今年度も皆様との連絡・連携のもと、実習指導及び支援のさらなる質の向上を図って参りたいと考えております。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。今後とも、(三藤 敏樹)

編集後記